

厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患等政策研究事業)
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究
分担研究報告書

自己免疫性肝炎 (AIH) の診療ガイドライン(2016年)

研究協力者 阿部雅則 愛媛大学大学院消化器・内分泌・代謝内科学 准教授

研究要旨: 厚生労働省難治性克服研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班(班長: 坪内博仁先生)で作成した「自己免疫性肝炎 (AIH) の診療ガイドライン (2013年)」をその後の知見などを含めて見直し、「自己免疫性肝炎 (AIH) の診療ガイドライン (2016年)」案を作成し、班員のコンセンサスを得た。

研究分担者・研究協力者

大平弘正 福島県立医科大学消化器内科
姜 貞憲 手稲溪仁会病院消化器病センター
玄田拓哉 順天堂大学静岡病院消化器内科
小池和彦 東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科
鈴木義之 虎の門病院分院臨床検査部
高木章乃夫 岡山大学消化器内科
鳥村拓司 久留米大学消化器内科
中本伸宏 慶應義塾大学内科学 (消化器)
原田憲一 金沢大学医薬保健研究域医学系人体病理学
藤澤知雄 済生会横浜市東部病院小児肝臓消化器科
吉澤 要 国立病院機構信州上田医療センター

共同研究者

有永照子 久留米大学消化器内科
乾あやの 済生会横浜市東部病院小児肝臓消化器科
銭谷幹男 山王メディカルセンター/国際医療福祉大学
十河 剛 済生会横浜市東部病院小児肝臓消化器科
高橋敦史 福島県立医科大学消化器内科

A. 研究目的

厚生労働省難治性克服研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班(班長: 坪内博仁先生)自己免疫性肝炎分科会

では、2009年に全国調査を行い、本邦における自己免疫性肝炎の病態および診療の実態を明らかにした。この調査結果や新たな知見も含め、我が国の実状を踏まえた「自己免疫性肝炎 (AIH) の診療ガイドライン (2013年)」を作成した。

http://www.nanbyou.or.jp/upload_files/AIH-Guideline.pdf

診療ガイドラインは、医療の進歩とともに定期的に改訂する必要がある。今回、その後の知見なども含めて全体を見直し、「自己免疫性肝炎 (AIH) の診療ガイドライン (2016年)」の作成を行った。

B. 研究方法

我が国の一般内科医、消化器・肝臓医、肝臓専門医等、自己免疫性肝炎の診療に携わる医師を対象に診療ガイドラインを作成することを目的とした。作成方法は、「自己免疫性肝炎 (AIH) の診療ガイドライン (2013年)」に準じて文献検索を行い、海外で発表されている診療ガイドラインも参考にしながら、我が国の実状や実態を考慮したガイドライン作成を行った。エビデンスレベルの強さと推奨度の分類はGRADEシステムに順じ、「Minds 診療ガイドライン作成の手引き (2014年)」に準じた形で記載した。

(倫理面への配慮)

とくになし

C. 研究結果

2016年6月16日の「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班第1回総会(東

京都)の際に第1回診療ガイドライン作成委員会を開催して作成方針を決定した。その後、作成委員の先生方を中心に文献検索、原稿作成を行った。内容については9月25日(福島市)、11月4日(神戸市)に診療ガイドライン作成委員会を開催し、意見交換を行った。その後も電子メール等で頻りに連絡を取り合って内容を調整し、診療ガイドライン作成委員会の先生方の意見を取りまとめた原案を2017年1月に作成した。その後、「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」に所属する班員全員に意見を募り、本研究班の診療ガイドライン案として取りまとめた。今後は日本肝臓学会会員の意見を伺ってから公開する予定としている。

D. 結論

「自己免疫性肝炎(AIH)の診療ガイドライン(2016年)」案を作成し、本研究班員のコンセンサスを得た。本診療ガイドラインは、医療の進歩とともに定期的に改訂する必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 阿部雅則：原発性硬化性胆管炎。今日の治療指針 2016 年度版。山口徹、北原光夫編集、p589, 医学書院、東京、2016.
- 2) 赤瀬太一、恩地森一、阿部雅則、竹治智、川崎敬太郎、村上貴俊、上原貴秀、山口朋孝、宮池次郎、大本昌樹：進行した肝硬変で診断に至った強皮症合併門脈圧先行性原発性胆汁性肝硬変の1例。愛媛医学 35: 94-98, 2016.

2. 学会発表

- 1) Abe M. AIH in Asia Pacific. 25th Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver. (東京都、2016年2月21日)
- 2) 阿部雅則、徳本良雄、日浅陽一：臨床的に急性肝炎様に発症した急性増悪期自己免疫性肝炎の病理学的特徴。第52回日本肝臓学会総会ワークショップ(千葉市、2016年5月20日)

3) 吉田理、阿部雅則、日浅陽一：当科のPBCにおけるGLOBEスコアとUK-PBCスコアの有用性の検討。第20回日本肝臓学会大会ワークショップ(神戸市、2016年11月3日)

4) 赤瀬太一、川崎敬太郎、阿部雅則、吉田理、竹治智、村上貴俊、上原貴秀、山口朋孝、宮池次郎、大本昌樹、堀池典生、日浅陽一、恩地森一：全身性強皮症を合併した原発性胆汁性肝硬変の臨床病理学的特徴。第58回日本消化器病学会大会(神戸市、2016年11月4日)

5) 竹下英次、山本安則、宇都宮大貴、八木専、有光英治、徳本良雄、廣岡昌史、阿部雅則、池田宜央、日浅陽一：無症候性PBCにおける門脈圧亢進症性胃症の合併は症候性進展への危険因子である。第58回日本消化器病学会大会(神戸市、2016年11月4日)

6) 阿部雅則：肝臓を視て診る；一見に如かず。第117回日本消化器内視鏡学会四国支部例会会長講演(松山市、2016年12月10日)

G. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし